様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ９ 日現在

機関番号：１６２０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2014
課題番号：２３５２０６３２

研究課題名（和文）日本語音声教育における文末イントネーションの指導に関する研究

研究課題名（英文）On a teaching method of sentence final tones in Japanese speech education

研究代表者
轟木　靖子（Todoroki, Yasuko）

香川大学・教育学部・教授

研究者番号：３０２７１０８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,600,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究は，日本語音声教育の観点から文末音調に焦点をあて，教師が話し言葉の文末イントネーションを指導する際の指針を示すことを目的としている。話し言葉の教育をおこなううえで，文脈に合った適切な文末表現を用いるよう指導することは重要であるが，さらにその文末表現形式がどのような音調に対応し，どのような意味・機能を担うかという点を少なくとも教師の側が知っておくことで，より効果的な指導ができるようになると思われる。本研究では、終助詞「よ」「ね」を中心に、日本語教育で指導すべき音調と意味の・機能の対応を整理し、iPadを利用した教材の試作版を作成した。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to show a method of teaching sentence final tones in Japanese, especially the tones of the sentence final particles “yo” and “ne”. Sentence final particles are important in Japanese conversations, not only with regard to choice but also intonation used. We described a teaching tool for SFP tones, using an iPad with the presentation software “Keynote”. The intonation of a sentence is shown by the movements of the hiragana characters of a sentence in this software. A model recording can be heard after the movement of the hiragana characters by tapping the screen. The advantage of this tool is that it is possible for every Japanese teacher to be able to teach SFP tones using this tool even if the teacher is not so well acquired with phonetics or phonology. Moreover, a foreign student can learn sentence final tones by him/herself and check his/her pronunciation.

研究分野：日本語音声学

キーワード：イントネーション　終助詞　文末　教材開発

１．研究開始当初の背景

日本語教育において，文末イントネーションの指導が重要であることは多くの教師が認識しているが，文末イントネーション，とくに音調に対応した終助詞の使い分けの指導に有効な教材や教師用尾指導書の開発はこれまで十分であったとはいえない。

文末音調の種類およびその役割については，数々の研究があるが，終助詞の音調は一般的な文末音調と機能の対応がかならずしも見られない点にその特殊性がある。また，日本語母語話者の場合は自身の生育地の方言で用いられる文末詞の音調の影響も少なからずあると考えられる。

２．研究の目的

本研究は，日本語教育における話し言葉の教育を考える際，音声教育の観点から文末音調に焦点をあて，現場の教師がどのような点に注意をして指導をおこなえばよいかの指針を示すことを目的としている。

３．研究の方法

（１）聞き取り調査および録音調査をおこない，日本語母語話者が共通認識として持っている終助詞の形態と音調と意味・機能の対応を明らかにする。

（２）聞き取り調査をおこない，日本語学習者が考える，終助詞の形態と音調と意味・機能の対応を明らかにする。

（３）日本語教育において重点的に指導すべき終助詞の形態と音調と意味・機能の項目を整理する。

（４）終助詞を含めた文末音調を学びやすい教材および指導書（試案）を作成する。

４．研究成果

（１）日本語母語話者に対する録音・聞き取り調査の分析

終助詞の音調は，前の語に対して同じ高さに付くか低くつくかという助詞のアクセント（順接，低接）と，その終助詞の拍内での音調変化（平坦，疑問上昇，アクセント上昇，下降，上昇下降）の組み合わせにより記述することができる。終助詞によって取ることのできる音調は決まっており，同じ終助詞でも音調によってあらわす意味・機能が異なる。最初に，日本語母語話者が理解している終助詞の形態と音調と意味・機能の対応を確認するために以下のような聞き取り調査をおこなった。

終助詞「よ」「ね」「な」「か」を伴った短い文（「桃だよ」「本当だね」など）の終助詞の部分を複数の音調で発話したものを聞いてもらい，提示した設定（「桃の花を見つけて教える」「あれは梅ではなくて桃だと言う」等）での発話としてふさわしいと思ったら○をつけてもらった。○をつけた回答者の比率が 8 割以上であったものを意味・機能の区別の観点から音韻的に整理したものを以下に示す。

よ　順接・疑問上昇～アクセント上昇
　　＜新情報提示，注目要求＞
　　低接・平坦
　　＜聞き手に反する意見の述べ立て＞
ね　順接・疑問上昇
　　＜確認要求＞
　　順接・アクセント上昇～平坦
　　＜同意要求＞
　　順接・上昇下降～下降
　　＜感情表出+同意要求＞
な　順接・疑問上昇
　　＜確認要求(男性語)＞
　　順接・上昇下降～下降
　　＜感情表出(聞き手なし)＞
か　順接・疑問上昇
　　（動詞終止形には音声的には低接）
　　＜問いかけ＞
　　順接・平坦
　　（動詞終止形には音声的には低接）
　　＜認知表明，反問>

（２）日本語学習者が考える，終助詞の形態と音調と意味・機能の対応

聞き取り調査の結果，日本語学習者は感情をともなった発話の音調は理解しやすく（感心して言う「なかなかやるね(ヤ˩ルꜜネ; 順接・上昇下降)」，文句を言う「うるさいなあ，ちゃんとやるよ（ヤ˩ル˥ヨ; 低接・平坦)」，そのいっぽうで，「早くやろう」とうながす「やるよ(ヤ˩ルヨ; 順接・平坦)」や自分が担当すると伝える「私がやるね(ヤ˩ル↑ネ; 順接・アクセント上昇)」などの用法において理解があいまいな傾向が見られた。

また，調査時におこなった，ふだんの文末

音調に対する意識や調査後の回答の出来についての内省に関する質問に対する答えの違いについても分析をおこなった。また,「ふだん文末の音調の違いをかなり聞き分けている」とした回答者が「少し聞き分けている」とした回答者よりもとくに日本語母語話者と同じような音調の選び方をしているとはいえず，同様に今回の調査に関して「文末の音の違いも意味の違いも大体理解できた」とした回答者の回答と「文末の音の違いは聞き取れたが，意味の違いはよく知らないので答えられなかった」とした回答者の回答もそれほど変わらず，ただ後者の回答者が全体の約 6 割を占めることから，終助詞の音調と意味の対応を指導することにより，終助詞の使い方についての理解がいっそう深まると考えられる。また，今回の調査では,「やるよ」「やるね」は一つの設定を除いて日本語学習者が 7 割以上同じ音調を選ばなかったことから，「桃だよ」「本当だね」に比べると日本語学習者にとって理解しにくいようであり，これは動詞述語と名詞述語の違いによるものなのかどうか，詳細に分析・検討をおこなう必要がある。

（3）日本語教育において重点的に指導すべき終助詞の形態と音調と意味・機能

終助詞「よ」「ね」について以下のように整理した。使用する記号は以下のとおりである。

疑問上昇	↗
アクセント上昇	↑
下降	↓
上昇下降	↷
モーラ間の上昇	「
モーラ間の下降	」
アクセント核による下降	’

「よ」: 聞き手は話の内容を知らない（と話し手が判断している）

①「桃だよ」モ「モダ↗ヨ

音調：順接・疑(ア)上昇

状況:「これ，何？」と聞かれて答える，あるいは桃の花を見つけて教える

②「梅じゃなくて桃だよ」モ「モダ」ヨ

音調：低接・平坦

状況:「これ，梅？」と聞かれて違うと答える，聞き手に反する意見の述べ立て

③「そろそろやるよ」ヤ「ル↗ヨ

音調：順接・疑(ア)上昇

状況：仕事を始めるときに仲間に声をかける

④「ちゃんとやるよ」　ヤ「ル」ヨ

音調：低接・平坦

状況:「早くやれ」と何度も言われて，怒って言う

「ね」: 聞き手は話の内容を知っている（と話し手が判断している）

①「来たのは（太郎じゃなくて）真由美だね？」　マ「ユミダ↗ネ

音調：順接・疑上昇

状況：すでに聞いた話を確認し，応答を求める

②「私がやるね」　ヤ「ル↑ネ

音調：順接・ア上昇

状況:分担して作業をしていて、自分が「ここをやる」と伝える

③「本当だ。桃だね」モ「モダ↑ネ

音調：順接・ア上昇

状況:「ほら，桃だよ」と教えられて，聞き手への賛同を示す

④「毎日暑いね」

ア「ツ’イ↑ネ，ア「ツ’イ↷ネー

音調：順接・ア上昇，上昇下降

状況：暑い日が続いていて，知人に同意を求める

⑤「太郎，なかなかやるね」

ヤ「ル↷ネー

音調：順接・上昇下降

状況：太郎が 100 点を取ったと聞いて感心して言う

（4）終助詞を含めた文末音調を学びやすい教材および指導書（試案）を作成する。

終助詞の音調の使い分けは重要であるが，学習者が正確に音調を習得するうえでは，音調の提示も必要であると考えられる。視覚的に教材に示された形と実際の音声がどのように結び付くかがわかることにより，その後の学習にも効果が期待できる。

今回は，Apple のプレゼンテーションソフト Keynote を使用し，iPad で提示しながら学習者が自分でタップしてモデル音声を聞く方法を試みた。例文の提示方法は①文字の

み，②文字の上または下に線を引く，③プロソディーグラフ(串田・城生・築地・松崎・劉(1995))，④文字の上を矢印が動く，⑤ 文字が動くの5 種類である。文は「いいですよ」「いいですね」「これは燃えるゴミですよ」とした。

日本語学習者(N1 合格者)7 名に上記の試案テキストを使用してもらったところ，音が出ない状態では，見なれた②③が良いという学習者と⑤が見やすくて良いという学習者の二つに分かれた。轟木・山下(2013)で提案した，文全体のおおまかな音調の動きを矢印で示す④が良いと答えた者は 2 名に留まった。音声が提示される場合は④が良いという学習者もいたが，文が長くなると⑤のほうがわかりやすいようであった。また，ほとんどの学習者は文字を見ただけの場合は「よ」は順接・上昇，「ね」は順接・上昇下降のみで発音していた。しかし，音調の提示（視覚・聴覚含めて）により読み方が変わり音調の種類が増えることが確認できた。

本研究では，⑤ の 文字が動く方法を取り入れた教材の開発を試みた。

一般的によく使われているプレゼンテーションソフトとしては Microsoft の Power Point がある。しかし，学習者が自学自習をすることと，個別に教師が指導することを両立できることを考えると，教室で各学習者に提供できるようなハードが望ましいということに加え，今回考案したアニメーションの動きに関して Keynote のほうが理想とする形に近いものを作成しやすいという事情もあり，iPad と Keynote を利用するに至った。

使い方は，最初の画面（図 1）をタップすると，文字が上下に動いて音調が視覚的に表示され（図 2）さらにもう一度タップすると，音声が聞こえる。さらにもう一度タップすると次の文の画面に移る。

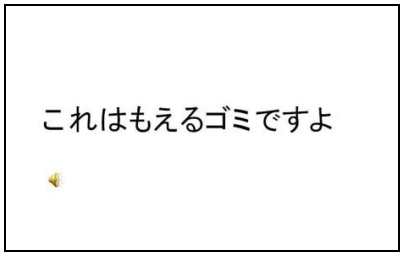

図 1

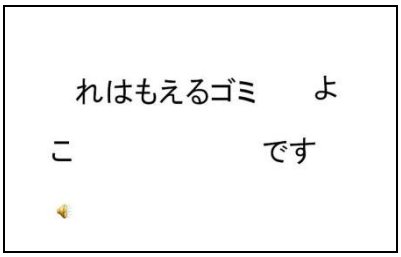

図 2

この教材はまだ試作版の段階であり，今後使用者の意見を参考に内容を充実させていきたいと考えている。教材には終助詞の音調についての解説を添付し，教師の理解を深め，指導の指針を示すことで文末音調のより効果的な指導に結びつけたいと考えている。

引用文献

串田真知子・城生伯太郎・築地伸美・松崎寛・劉銘傑(1995)「自然な日本語音声への効果的アプローチ：プロソディーグラフ－中国人学習者のための音声教育教材の開発－」『日本語教育』86 号，39-51.

轟木靖子・山下直子(2013)　「日本語教育における終助詞の音調の指導について　－教師用テキストの作成を目指して－」日本語教育学会秋季大会予稿集：254-259.

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①轟木靖子・山下直子(2014)　終助詞「よ」「ね」の音調の地域差について－東京・岡山・香川の比較－，香川大学教育学部研究報告第Ⅰ部，査読有，142 号，75-83.

②轟木靖子・山下直子(2013)　終助詞「よ」「ね」の音調の聞き取りについて　－中国語母語話者及び韓国語母語話者の場合－，比較文化研究，　査読有，No.109，日本比較文化学会，　27-39.

③轟木靖子・山下直子(2013)　終助詞「よ」「ね」の音調について　－日本語音声教育の視点から－，香川大学教育学部研究報告第Ⅰ部，査読有，139 号，香川大学教育学部，103-112.

〔学会発表〕（計 6 件）

①轟木靖子・山下直子(2015)　視聴覚効果を生かした教材の試案 －終助詞の音調を中心に－日本語日本文化教育研究会研究発表会，大阪大学間谷キャンパス（大阪府・箕面市），3 月 14 日.

②轟木靖子・山下直子(2014)　プレゼンテーションソフトを利用した終助詞の音調の指導法について，日本語教育学会研究集会（四国地区），鳴門教育大学（徳島県・鳴門市），11 月 18 日.

③轟木靖子・山下直子(2013)　日本語教育における終助詞の音調の指導について－教師用テキストの作成を目指して－，2013 年度日本語教育学会秋季大会予稿集，日本語教育学会，関西外国語大学中宮キャンパス（大阪府・枚方市），10 月 13 日，254-259.

④轟木靖子(2013)　共通語における終助詞「よ」「ね」の音調について　－発話資料の分析－，近畿音声言語研究会 7 月月例会，西宮市大学交流センター（兵庫県・西宮市），7 月 6 日.

⑤轟木靖子・山下直子(2012)　日本語教育における終助詞の音調の指導について　－「よ」「ね」を中心に－，日本語日本文化教育研究会研究発表会，大阪大学間谷キャンパス（大阪府・箕面市），3 月 17 日.

⑥轟木靖子・山下直子(2011)共通語としての終助詞の音調について，日本語教育学会研究集会（四国地区），香川大学幸町キャンパス（香川県・高松市），11 月 19 日.

〔図書〕（計　　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
轟木　靖子（TODOROKI, Yasuko）
香川大学・教育学部・教授
研究者番号：３０２７１０８４

(2)研究分担者
山下　直子（YAMASHITA, Naoko）
香川大学・教育学部・教授
研究者番号：３０３１４８９２

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：